

米国を代表するオーケストラ、ワシントン・ナショナル交響楽団と、
2017年に音楽監督に就任した指揮者ジャンドレア・ノセダが、
この3月に満を持して日本ツアーを行います。

来日に先駆け、今回、3月11日に東京芸術劇場で演奏する
プログラムについて電話インタビューを行いました。

ジャンドレア・ノセダが語る シューベルト：「未完成」と マーラー：交響曲第5番

ジャンドレア・ノセダ
(ワシントン・ナショナル交響楽団 音楽監督・指揮)

© Tony Hitchcock

Q：3月11日の東京でのプログラムは、マーラーの交響曲第5番、そしてシューベルトの交響曲第7番「未完成」です。マーラーの第5番ですが、まずこれは、演奏時間が約70分と長い交響曲の部類に入りますよね。どのようにして最後まで集中力を保つのでしょうか？

ノセダ：おっしゃる通り、かなり長い曲ですが、マーラーの交響曲のなかでは一番長い訳ではないですね。第6番、第7番、第8番…そして第3番のあの長さ。第5番の70分はむしろ短いほうです、彼の作品としては。ですがその内包するものは非常に豊かです。私たちに長旅の感興を与えてくれる。東京から出発したら、横浜まで、という短い距離ではなくて、もつとずっと遠く…たとえばモスクワまで行くような旅です。長い旅となれば、それは疲れます。前日にあわてて準備、というわけにもいきませんね、でもだからこそ生まれる喜びがある。横浜への日帰り旅も、もちろん楽しいですが（笑）、楽しみ方が違う。遠くまで行くこととする道中でまずわかるのは、自分がとても小さな存在に過ぎない、ということでしょう。広く遠い距離を渡るとき、世界の大きさに感動します。マーラーの交響曲の魅力は具体的な長さもさることながらその奥行きと世界観で、この作曲家がそこに何を込めたのか、ということ。自分の「小ささ」を悪い意味にばかり感じるのではなく、その思いはなんぞ「そこから成長しよう」という意思に変わってゆく考えこそが大切ではないかと思っています。

Q：マーラーの第5番は、第1番「巨人」と並んで演奏される機会の多い交響曲ですね。第5番の第4楽章は、これはもう、イタリアの監督ルキノ・ヴィスコンティの映画『ヴェニスに死す』のおかげで、世界的に有名になりました。クラシック音楽にとくに興味がなくても、あの第4楽章ならどなたも「聞き覚えがある。」と思われることでしょう。

ノセダ：そうですね。そしてこの交響曲も第4楽章に至る前とその後を通しての長い旅なのですから、すべてをしっかりと聴いていただきたいのです。みなさんが実際に旅する時のように、出会いと驚き、そして詩情を満喫していただきたいと思います。抑揚に満ちた

旋律に浸っていただきたい。第2楽章は非常にドラマティックです。「善と悪」の概念のせめぎ合いがテーマになって、シンボリックな手法で描かれています。そして第4楽章『アダージェット』ですが…私にはあの楽章は苦悩に満ちた愛の手紙として響きます。二体、愛は続くのか、それとも、新しい何かに向かっていくのか…判断としない不安のなかで遠く叫ぶ魂の、究極までやさしく、やわらかく抑えられた表現を味わっていただけたと思います。冒頭から弦楽器のとても「ウィーン風な」音で始まり、終始流れるように展開していきます。最終楽章では風景に光が差ししてくるかのような、喜びの表現がきます。やや喜びすぎのような感じもするのは、どうしても答えが出なかったことについて、もはや理詰めにするのを放棄して、自分を超えた大きな力にすべてを委ね、心を開放しようとする力学が働いているからだと思います。

Q：シューベルトの第7番「未完成」ですが、ありきたりな質問ですが、作曲家がこれを「未完成」のままにしたのは、なぜだと思われますか？

ノセダ：いくつか理由が言われていますが、そのどれも正しくもあり、また、完全に言い当ててもないのでしょう。私の意見もひとつの仮定にすぎませんが…思いますのは、最初の2楽章はきちんと仕上がっていて、3楽章目は手をつけたが未完、終楽章は構想すらしなかった、というのですが…私は、これを演奏するとき、未完の部分を手づかぬ方法で補う必要を感じないのです。シューベルトが残した形のままで完成している印象を受けるからです。そこに、「このあと、メヌエットやスケルツォ、最後に終章をつけてくれ。」と言われている感じがしません。おそらくシューベルト本人がそう感じていたからで、ただ、じゃあどうすればこの短い形のまま完成形にできるか、そこまで消化しきれなかったのだらう、と思うのです。だから、結果的に最初の2楽章を、ただ残した、ということだろうと。第1楽章、第2楽章を改めてそれぞれお聴き

いただきたい、併せて「未完成」と命名されているにもかかわらず、それぞれは見事と言えるほどに完成していますよ。おのおのが、きりと彫りがはつきりした独立した彫像のようです。でも彫刻家は、それを何体もある連作にまではしなかった。そんな感じなのです。

Q：未完成、とは、たんに長さに短いだけ、と解釈してもいいのですか。

ノセダ：そうですね。味わいのとても深い作品ですから。シューベルトの時代のウィーンの空気、若い芸術家たちのボヘミアンな生活。やはりその香りは十分ありますね。また、シューベルトとマーラーは時代こそ80年ほどの開きがありますが、同じウィーン音楽の系譜ですから、そのつながりに想いを馳せていただくのも興味深いのではないのでしょうか。私の言葉で言えば、彼らが見ていた「光」「空気」が、同じ高台から同じ景色を見つめながらどこか違って、それは二人の芸術家の目線の違いに他ならないのですが、その違いをもつて彼らの音楽の中で、シューベルトが突き詰めたかったものをマーラーが引き継いでいることがあるかもしれない……そんなふうに想像してみる、ということになるでしょうか。

情熱的なロストロポーヴィチ、薫り高い大きな音楽性を備えたエッシェンバッハ、抜群のバトン・テクニクをもつスラットキンらが音楽監督を務めたワシントン・ナショナル交響楽団。アメリカ的な歯切れ良い整った音をもつ同楽団に対し、オペラ指揮者としても活躍が目覚しいノセダは、さらにヨーロッパ的な感性を磨くことを目指しているそうです。表現力を豊かにしたい。フレージングをもっとうたうように。一つのスタイルでなく、色々な音楽に対応できるように……。2021/22シーズンからチューリッヒ歌劇場の音楽監督にも就任するマエストロ・ノセダ。きつと日本の聴衆に新たな発見と感動をもたらしてくれることでしょう。

(訳・インタビュー／高橋美佐)

プログラム
チケット料金

シューベルト：交響曲 第7番 ロ短調 D759「未完成」

マーラー：交響曲 第5番 嬰ハ短調

2020年

3月11日(水) 19:00 開演 (18:20 開場／21:00 終演予定)

東京芸術劇場 コンサートホール

© Scott Suchman

© Tony Hitchcock

S¥17,000 A¥15,000 B¥10,000 C 売切 (税込)

夢倶楽部会員料金 S¥16,000 A¥14,000 B¥9,000 C 売切 * 料金には消費税が含まれております。

お申込：ジャパン・アーツ ぴあ 0570-00-1212 www.japanarts.co.jp

主催：ジャパン・アーツ

後援：アメリカ大使館

ジャンアンドレア・ノセダ (音楽監督・指揮) Gianandrea Noseda, Music Director, Conductor

ジャンアンドレア・ノセダは、同世代の指揮者の中でも先頭に立つひとりとして広く認められている。2016年1月にワシントン・ナショナル交響楽団の第7代音楽監督に指名された。その他、ロンドン交響楽団とイスラエル・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、カダケス管弦楽団の首席指揮者、イタリアのストレーザ音楽祭の芸術監督も務めている。また、2021-22シーズンよりチューリッヒ歌劇場の音楽総監督に就任することが決まっている。ノセダは世界の主要なオペラ・ハウス及びオーケストラで頻繁にゲスト出演しており、その中にはメトロポリタン・オペラ、クリーヴランド管弦楽団、スカラ座、ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、NHK交響楽団、フィラデルフィア管弦楽団、ロイヤル・オペラ・ハウス、ウィーン交響楽団、チューリッヒ・オペラが含まれる。2015年にはベルリン・フィルハーモニー管弦楽団と初共演し、また同年のザルツブルク音楽祭にもデビュー。ミラノ生まれ。イタリアの芸術界に対する貢献により、イタリア共和国功労勲章《カヴァリエーレ・ウッフィチャーレ》を授与されている。2016年国際オペラ賞の「今年の指揮者」受賞。同年ストックホルムにおいてノーベル賞コンサートを指揮する名誉を受けた。

ワシントン・ナショナル交響楽団 National Symphony Orchestra

1931年の創立以来、「アメリカの大統領府の都市にあるオーケストラ」として、常に芸術的卓越性と確たる存在感を発信し続けるオーケストラ。現在96名の団員を有し、キャピトル・コンサーツがテレビ放映する公式祝賀行事や、国内はもとより国際的にも重要なイベントに頻繁に参加し、米国で最もよく人々の耳に届くオーケストラのひとつとなっている。2016年に音楽監督にジャンアンドレア・ノセダは、七代目の音楽監督として、エッシェンバッハ、スラットキン、ロストロポーヴィチ、ドラティという錚々たる指導者たちのタクトを受け継ぐ事となった。

毎年、ケネディー・センターや夏のウルフ・トラップ、また米国の首都ワシントンの芝生の上で、世界的ゲストを迎えてのコンサートの他、年間150を超える公演を行っている。また、オーケストラとしてのレパートリーの拡大や現代の作曲家たちのサポートにも熱心に取り組んでいる。これまでに、60を超える作曲家に新作を委嘱し初演してきた。その時代の音楽を演奏することは、常にワシントン・ナショナル交響楽団の使命としての最優先事項とされており、この取り組みは早くも1934年から、世界初演や米国初演の作品を聴衆に届け続けている。

【ジャンアンドレア・ノセダ指揮 ワシントン・ナショナル交響楽団 その他の公演スケジュール】

3月6日(金) 19:00 ハーモニーホールふくい
3月7日(土) 14:00 フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)
3月8日(日) 13:30 広島文化学園HBGホール
3月10日(火) 19:00 サントリーホール

お問い合わせ：ハーモニーホールふくい チケットセンター 0776-38-8282
お問い合わせ：フェニーチェ堺 072-228-0440
お問い合わせ：HOME.イベントセンター 082-221-7116
お問い合わせ：ジャパン・アーツぴあ 0570-00-1212 (共演：諏訪内晶子)